



ふく霊言霊
2018 冬

ほんわか、あたたかい冬の言葉

村上 香

小学校低学年の頃、週末は近所に住んでいた叔母の家に泊まりに行っていました。叔母の家は田舎の古い家でしたから、戸袋から雨戸を引き出すと部屋が真っ暗になりました。雪の日には真っ黒な部屋の中で、叔母が話してくれる物語を聞くことが楽しみでした。

彼女の作り出した物語の登場人物は、不思議なイントネーションで話しかけてくるからいつも私は笑い転げていました。

目をどんな凝らしても何も見えない部屋で二人をすっぽりと包んだ大きな布団。特に寒い日は、あの満ち足りた時間を懐かしく思い出します。

さて、ふく霊言霊2018冬号です。

今と比べたら何かと不便だったであろう当時の冬の暮らしますが、お話を聞いていくと、ほんわかあったかい親子や兄弟の交流があったことがわかりました。

生活がなにかと不便だったからこそ、あたたかく、濃い思い出となっているのかもしれないですね。そういう話をされるときは、本当にイキイキと目が輝いてきます。話を聞くことは、話している人の人生を追体験することなんだと改めて思いました。

いつの間にか、ぽかぽかとあったかい気持ちになってくる言葉たちと一緒に感じていただけたら幸いです。



飼い始めて半年経った頃に、ようやく職場の鶏が卵を産み始めました。卵はありがたく、利用者さんの朝食に変わります。

ふく霊言霊
2018 冬



私ね、焼きもち
焼いたことあるんよ。
うちの旦那がほかの女と
歩きよるところ見たときは
焼いたねえ（笑）

笑いながらそう話す彼女の目
には、ふっふっとした怒りの炎
がみえるよう。
しかし、年を重ねても、男女
の話は盛り上がります。

85歳 女性

年をとったら体が冷えてねえ。
メリヤスのパッチをはいて
冬物のズボンをはいても
足が冷えるのよ。

年をとって、生きるって本当
に大変なんよと、しみじみと語
る。時々、夜中に大きな声を出
したくなるという…。
生きるって大変だ。

93歳 女性





昔はそうやって、生活の知恵
や技が受け継がれていたんだろ
うなあ。便利になったからこそ
失うものもあるんだね。

87歳 女性

うちの姑さんは、お餅をついたら
大きなかめ鉢にペタペタ押して
重ねていきよった。
空気が入ったらカビるけんね。
そうやって保存するんよ。
食べるときはへりへり取って
焼いたり煮たりしてね。
ほんと、うちの姑さんは
そがなことで上手かったんで。

今は雪は積もらんけど
昔は、紀元節あたりに
よう雪が積もりよったでえ。
膝下ぐらいは積もりよった。
山に行って滑りよったよ（笑）



紀元節。今はあまり聞くことがない言葉にハツとする。
ググってみると、古事記に出てくる初代天皇の即位の日なのだから。ははあ。

97歳 女性

編みもんは、ようしよったよ。
八十になったら、せんくなった。
あんた、といった糸は湯のしせにやあ。
湯につけたら毛糸がまっすぐになるよ。
こうやって、こうやって、
頭だけしばってな。
ほて、お湯の中につけるんよ。
ほたら、糸がまっすぐになって、
毛糸がふくれるわ。

94 歳 女性



この手がねえ、
こう寒いとよけいに動きにくいんよ。
一番こまるんは、食べるときよ。
フォークなら突き刺すだけやけん
助かるでえ。

ほでも、あんた、豆腐だけは
フォークでも、手でも、
食べるんは難しいでえ（笑）

87歳 男性



手があまり動かなくなつて箸からフォークへ切り替えて数年。
なかなかうまくいかないことも笑い飛ばす。たくましい！

97歳 女性

ゆれる枯れ葉の見える場所

田房美穂

格子窓から桜の木が見える。

風が吹く度にゆっさゆっさと揺れている。

「今日は風が冷たくて寒いよ。ほらあんなに木が揺れて風強いでしょう?」

「そうみたいやのう」と車椅子の彼女が答える。

「さっきからあの枯葉がいつ落ちるか、いつ落ちるか思っ
て見よるんよ。」

車椅子の高さに目線を合わせてみると、一枚の枯葉が辛うじて枝についていて、風が吹く度にぎゅういんぎゅいんと左右に揺れたり、左右に半回転したりとスリル満点。

目線を合わせてみないとこのスリルに気が付かなかったと思う。

「あの枯葉がなんぼとるね、いつ落ちるんやろ。」

私たちはいつか落ちるであろう一枚の枯葉を見守る。

落ちる瞬間を見届けたい。
なんて醜い愚か者だろうと思う。



「そんで俳句考えてみようか思いよんよ、下手やけど」
人に評価をされることを気にして自分の楽しみ方を
あきらめることはない。

やりたければ下手でも、下手な俳句をこれでもかと言
わんばかりに作ればいい。どれかひとつヒットするよと
思う。

あきらめたりなげだしたり辞める勇氣より、自分
を楽しんで続ける強い勇氣、信念を持ち続けたいな。
持ち続けられるような工夫をしたいな。

こんな些細なやりとりの中にも自分の至らなさを、醜
さ弱さを知りそれを素直に受け止め、自分の壁を乗
り越えて気高く生きることを教わっていることに直面
する。

昔は一つの布団に
妹と一緒に寝よった。
ぬくかったでえ。

ほても、
姉ちゃんばかり
布団をとって、
うちは寒かったんで
ゆうて妹によう言われよった。

子供の頃の思い出。妹のこと。
こうして、お婆さんになってしま
ったけど、今でもはっきりと覚え
ている。

その布団のぬくもりまでも。

わしは冬に食べるもんで
最高なんは
赤なまこのなますじや思う。
首の青い大根をすって
入れてみんさい、
からいけんど、うまいでえ。

81歳 男性





いやあ
うかつに
しあわせとは言えん



今日は、寒いのを。

満州に何年かおったけど

寒いゆうたって乾いた風じゃった。

ここは湿気があるけんのう

寒いんじやのう。

91歳 男性

小さい頃、家の前の道路で、
よう凧揚げをしようたよ。
新聞紙に竹ヒゴをつけて、
足をつけて揚げよった。

風がある日は、
上へ上へとよう揚がりよった。
しまいにや、
手からはずれて飛んでいったわ（笑）

89歳
女性



わしのこまい折、
朝、おかあと一緒に起きて
カマドで並んで火い焚きながら
おかあにもぶれついて
おっぱいいらいよった。



幼い頃、母さんのおっぱいは
誰にとっても最高の癒やしグッ
ズだったに違いない。「いらう」
という言葉は、いやらしさでな
く、むしろ純粋に響いてくる。

81歳 男性

ふく霊言霊 2018 冬

発行日 | 2019年2月10日

発行 | NPO法人ふくふくの会

理事長 竹林健二

愛媛県越智郡上島町弓削上弓削3

公式HP | <http://fukufukunokai.com/>

☎ 0897-77-3663

✉ fukufukusan@rainbow.plala.or.jp

聞き書き | 村上香 田房美穂

写真 | とり林フォトクラブ

イラスト | 村上永

編集 | ふくふくの会編集室



寒さに
負けるな！

